

国分寺市図書館運営協議会第4期第3回定例会

日時：平成25年6月13日（木） 午前9時30分～11時30分

場所：光公民館 中会議室

欠席：1人 傍聴：0人

午前9時から9時30分まで光図書館見学

会長：3回目の会議を始める。事務局に変更などはないか。

事務局：4月に人事異動があり、もとまち図書館長がふるさと文化財課へ異動、障害者相談室から中村がもとまち図書館長になった。公務で欠席であるため、次回紹介する。

会長：では議題に沿って行く。まず、報告事項を事務局から。

事務局：配布資料の確認。昨年度の報告と今年度の予定を報告。平成20年に「国分寺市子ども読書活動推進計画」を5年計画として策定。5年が経過し、今年度からの計画として「第二次子ども読書活動推進計画」を3月28日の教育委員会で策定した。今回の計画は、第3期運営協議会での見直しや、小中学校・保育園など子どもの関連施設、文庫・おはなしグループなど子ども読書に関わる市民グループへのアンケート調査や聞き取り調査を行い策定した。市内各2校の小学校の児童、中学校の生徒の全学年にアンケートを行い、子どもの読書の現在の状況を調査し計画に反映した。12月1日から1月8日までパブリックコメントを行い、4人から29件の意見があり、教育委員会の考え方を示し、5件を計画に反映した。この計画は平成29年度までの5ヵ年計画である。年次ごとに計画を進めていくが、運営協議会で25年度以降の進行管理をしていただくなど、協力を得ながら達成していきたい。第二次計画の特徴は、YA世代の中高生を中心に読書に触れる機会を増やしていくこと、11月第2週に行う教育委員会全体で取り組む「国分寺市教育7DAYS(セブンデイズ)」で、国分寺市の「家庭読書の日」を設け、家庭での読書啓発に関する事業に取り組むことなどとなる。続いて平成24年度の事業概要を報告。国分寺市の図書館は、昭和48年に恋ヶ窪、本多図書館が開館し、今年が40周年の年になる。取り組んでいる長期的図書館計画はないが、第1期の運営協議会で出していただいた「指針」を基に年度ごとに目標を立てて取り組んでいる。平成24年度は、子ども読書活動推進計画の第二次計画の立案、緊急雇用による閉架書庫の整理及び文庫・新書の背ラベル貼付とICタグ貼付、定期休館日のあり方を考え開館日を増やしていくための検討、北口再開発ビルに入る駅前分館の準備、泉町に来る都立図書館との連携などが主に取り組んだ事業である。事業実績を資料3-3①で数字を上げて示している。蔵書冊数は除籍を進めたため約1万冊減少しているが、新しい本を約1万8千冊受け入れた。貸出冊数は減っている。平成22年度114万冊であったが、東日本大震災や停電休館の影響で平成23年度は108万冊と減少した。昨年度は旧に復するように頑張ってきた

たが、資料費の大きな削減もあり、全体的に貸出冊数・リクエスト受付件数が大きく減少している。児童サービスは、事業に取り組んだ回数をあげている。運営協議会や市内全館で行った利用者懇談会は参加人数を示している、資料3-3②は、日本図書館協会から「貸出整備状況」の平成23年度データが発表されたので、国分寺市と比較している。国分寺市の人口は約11万人で人口10～15万人の枠の中に入る。貸出密度が上位10パーセントの自治体の平均値との比較である。資料3-3③で図書館の予算の推移を示している。平成25年度は、資料費3000万円を確保した（図書費2300万円、子ども読書関係費用93万円）。ICタグは毎年少しずつ貼ってきたが、平成25年度は予算の確保ができず、緊急雇用創出事業（国の補助金）も終わり課題である。平成25年の事業概要は、資料3-4「平成25年度国分寺市立図書館重点目標」に示している。1として、今年度は図書館電算システムが9月にリース満了になるため、現在教育委員会のシステムを一括で取替える方向で、来年2月を目標に準備を進めている。3として、小平市との相互利用は今年中に協定を結び実施することを考え準備に入る。4として、月曜日祝日開館の実施。国分寺市は月曜日が定期休館で全館休館だが、その後ハッピーマンデー制度ができた。年によって月曜日が祝日と重なることが多く、今年度は9日間重なっている。祝日だけでも開館できないか昨年度から検討し、4月から本多図書館で試行を始めた。利用者には好評である。本多図書館駅前分館は再開発ビルの工事が始まるということで、ここで動きが出た。4月の末から移転をし、5月1日から新しい場所で開館、6月、再開発の事業者が決まった。住友不動産が特定建築者として決定。駅前分館は西街区5階の公益施設に移るということで、以前も利用者懇談会でのご意見聴取やアンケートなどを行っているが、そういう流れの中で新しい工事のために場所を移転し、さらに駅前分館のブックポストを移動。市民サービスコーナー前にブックポストを5月31日に設置した。人の流れによってはよく利用していただけるようになると思う。6番目は子ども読書活動である。7番目の長期延滞資料については新システム稼働時に取り組んでいきたい。長期延滞者の貸出制限等について考えたいということでも準備を進めている。学校図書館の地域開放については第4次長期総合計画に盛り込まれており、一度検討委員会で報告は出ているが学校や、学校指導課と調整しながら進めていきたい。

最後に都立多摩図書館が移転してくることに伴い、市立図書館として図書館から遠い泉町のエリアのサービスについて、また、都立図書館との連携を考えていかなければならないと考えている。

各館報告は、年次計画として今年度の事業の取り組みを表にした。主に児童サービスの取り組みになる。子ども読書活動の事業の取り組みについても表にしてある。行について。東元町文庫の講演会が6月15日、宮川ひろさん。おはなしポケットと図書館の共催での講演会6月29日宮川健郎さん。最近図書館はツイッターを始

めた。まだ7個ぐらいしかツイートしていない。行事の関係やお知らせなどを発信していけたらと思っている。機会があったら見てほしい。以上。

会長：質問はあるか。一つずつ確認するが、子ども読書の第二次ということで手元にあるが、子ども読書について皆さんはお分かりか。皆さん関わりがないと思うので、経過を話していただきたい。そもそも自治体がこれを作るきっかけは。

館長：平成11年8月に衆参両議院で閣議決定。平成12年を子ども読書年にしようという決議がされた。平成13年12月に子どもの読書活動の推進に関する法律ができ、4月23日が子ども読書の日と定められた。平成14年基本的計画を国が決めた。その中で各自治体で子ども読書に取り組む計画を作り、それに則って事業を展開していくように書いてある。国の方はすでに第三次計画を策定中であるということである。国の計画を受けて東京都が計画を作り、東京都の計画の第三次になっている。それを受け、各自治体が子ども読書計画を策定し、多摩地域各市町村でも計画をしている。国分寺市は平成20年に一次ができた。その際は策定委員会を作りその中には協議会の委員も3名入り、計画書を作った。今回第二次を作るにあたり、子どもの置かれている状況は5年で変わってしまう訳ではないので、5年間継続してきたものをもう少しきちんと継続し、確固たるものとしていくことも必要だということで第一次の計画の後期をイメージし、第二次計画は事務局を中心に協議会委員にも入っていただいて策定した。内容は、第一次の計画でそれ以前からも行っていた事業と計画で取り組み出した事業を継続し、新たに事業を加えた。

会長：第二次の計画の資料編の最初にその関係の法律が出ている。これに基づき全国の都道府県が取り組んでいる。図書館だけがやる訳ではなく、全庁的取組として、取りまとめが国分寺市の場合は図書館であり、図書館だけの事業ではない。そういう視点で見ると図書館以外の部分も本来もう少しいろいろな形であっていい。今後は庁内の働きかけが求められている。

館長：第二次計画を作るにあたって関係各課へも聞き取りに行った。一覧表には入れている。会長からのご指摘もあり、全庁的に取り組んでいけるように努めたい。

会長：パブリックコメントについて紹介しておいた方がいい特徴的なことは。

館長：学校図書館、あるいは学校に関する意見をたくさんもらった。今回、学校指導課とも協議をしながら進めて行っているが、平成22年に全校の学校図書館に司書が配置され学校図書館活動が活発になってきているということがコメントの中に反映しているのではないかと思う。

会長：1の子ども読書活動について意見は。では、2の24年度の事業概要について意見は。

館長：7月末には「国分寺の教育」が出る。統計的な数字は載せていないがそれも併せて配布したい。

会長：1件気になる数字として、利用者懇談会は一桁だが、もう少し増やす方法というかできれば、参加者を二桁にしていろいろな意見を頂いた方がいい。

館長：前の委員さんからももう少し参加者を呼びかけるように言われていた。カウンターで声をかけたり，図書館の外にもポスターを貼ったりしているが，国分寺の場合併設の公民館はグループ利用だが，図書館は個人利用なので，ご意見箱を設置していたり，日常カウンターで話しているからか，参加者が少ないのかとも思う。やはりこれから先いろいろなことについて協議会でも検討いただくが，一人一人の利用者の意見を協議会で検討して，工夫をしていかなければならないと思っている。ツイッターでもつぶやきたいとか，自治会の会長が出ていると早くに決まれば自治会の回覧版に載せてあげると言われたりもしている。そういう工夫をしていきたい

会長：大勢の参加があるといい。図書館の実績を知ってもらいたい機会なので。窓口ではなかなか話もできないが，ひざを交えると意見も言える。併せて目玉になるようなものを作って，図書館の上手な使い方のような講座や催しと組んで。利用懇談会だけだと人が集まらないがプラスアルファがあると参加者が増えるのではないか。

館長：以前には利用者端末の使い方，ホームページの見方の説明，駅前分館の有料データベースの紹介，本の探し方などと併せて，ご意見を伺いますというのもやったが，なかなか数字が思うように確保できない。工夫が必要。

委員：曜日や時間の工夫はしているか。

館長：土日や夜間，館によってバラバラなので今回はどこで土曜，夜間をどこというように平日午前でずっとやるとかではなくいろいろな時間帯を考え，近くの文庫やおはなしグループの活動日は避けるなど，曜日の設定に工夫しているが数字にならない。

会長：お知らせを早めにして周知させるのが必要。

委員：図書館の使い方とかがわからない人も多いので，声をかけていただければいい。意見だけを言いに行くのは行きづらい。今はどうやって知らせているのか。

館長：カウンターでのチラシ配布，公民館やそれ以外の施設掲示，図書館ホームページ，自治会の掲示版，児童館，市報にはもちろん載せている。

会長：地道に続けていけるのが大事。成果を，前回こういうことがあったということもどこかにきちんと出していくことが必要。

館長：図書館ホームページには利用者懇談会の記録をアップしている。もともとの経過はこの運営協議会の発足前，議会に諮った時に市内5館に協議会を作った方がいいのではという意見もあった。公民館はそれぞれの公民館に審議会があるので5つ作った方がいいという意見があったが，図書館は市内5館で同じサービスを提供しているので一つにさせていただき，その流れの中で利用者懇談会をし，出た意見を協議会で検討させていただく。当初は協議会の前に必ず利用者懇談会をやっていたが年3回利用者懇談会をやったが人も集まらない。年3回は大変なのでせめて年1回ということで，年1，2回やってきた。目につくような工夫を考えさせていきたい。

委員：本多公民館や図書館はいろいろな事業を市民に向けてしているのに，あまり知られていない。この前参加したおはなしポケットもいろいろな事業をやっており，お知

らせの紙が図書館や公民館に貼ってあるのに、通り過ぎる。一般の人はあまり知らない。入口の窓ガラスに貼るとか目につきやすいところに貼って広くPRできるといい。おはなしポケットの人は面白いネタをいっぱい持っているので協力し載せてもらって興味のなかった人にも聞いてみようという気を起こさせる工夫をしては。

委員：広報に関して言えば図書館はおとなしい。もっと前面に出て宣伝したほうがいい。佐藤涼子さんの講演会にあんまり来ていなかった。どうして図書館の人は宣伝しないのかと思った。手渡しにすれば来るのに。もっと宣伝した方がいい。

会長：他にはよろしいか。次に予算について。それから事業予定、今のお話も問題としてせつかくの事業なので事前にPRしていただき共通する問題、PRに努め多くの参加者を呼ぶ努力を。報告全般はよろしいか。次は協議事項について。

事務局：平成24年度の国分寺市子ども読書活動推進計画進行管理表、資料3-6をご覧ください。第1次の策定の時、進行管理・評価について運営協議会にお願いした。平成21年より毎年進行管理表を作成し、この協議会で評価をしていただくという形をとらせていただいている。担当の方から報告する。

事務局：進行管理表24年度、配布したA3、1枚のもの、計画の体系図であるがそれぞれの取り組みの柱4つ。図書費予算のマイナスの影響もあり、購入冊数は減っている。除籍冊数が少ない。使いやすい棚にするために除架が必要。障害のある子どもたちへのサービスは、児童向けDAISYを8タイトル購入。一般書架に置いてあるが、さわる絵本2タイトル11冊購入。課題としては子どものDAISYの利用がないので障害者の利用の改革を障害者サービスの担当とともに考えるのが課題である。学校図書館資料の充実、学校図書館は平成22年度小学校10校、中学校5校含め、蔵書は市立図書館の児童の蔵書より6000冊くらい上回っている。蔵書の質を高めていくことを課題としている。小児科の待合室への本の配置は、全小児科に配布するのは実施困難であり未実施。おはなし会は全部で188回開催した。20年度は小さい子4館、大きい子2館、24年度は小さい子5館、大きい子5館が開催。大きい子向けは利用が減っており増加に向けた取り組みが課題。保育園・幼稚園・児童館・公民館等のおはなし会の実施や地域家庭文庫PTA等おはなし会はそれぞれの活動の現場で継続実施されている。学校図書館の図書指導担当の配置の充実。24年度は、全小中学校で全日、図書指導担当が配置され、その担当の情報共有のため、年度内5回小中学校図書指導担当連絡会を開催している。取り組みの方向の2段目で訂正「読書活動」を「読書指導の充実」に直す。市立図書館の利用方法の指導は、中学生が市立図書館に来てオリエンテーションをするというのを考えていたが、学校に時間がないことや依頼がないことからできていない。学校での図書指導担当が指導をする際に、相談には乗るということはやっている。年度初めの学校への挨拶の時に図書館ではこういうことをやっているとPRしたいと思っている。各年代向けブックリストはそれぞれ発行し配布を行っている。テーマ別行事向け紙芝居リストは

幼稚園保育園に紹介するためのものなので配布を確実に。地域資料の国分寺を知るための本のリストは小学生用を23年度に作り24年度は中学生以上用を作成。ホームページでの情報発信について、年代別ブックリスト一覧表を紹介していたが、そのほか国分寺市図書館で発行しているその他のリストについて情報発信について考える必要がある。団体貸出セットを増やしていく。YA世代中学生へのおすすめ本「DOH」、「DOH+」の発行、YA世代が利用しやすいように。リサイクル本の提供、児童書の場合は学校図書館、保育園、文庫、家庭支援センター、残りを個人にリサイクルしている。学校図書館の充実のところでは、読書センター学習センターとしての学校図書館の機能の充実。図書館システムを使った、公共図書館との連携は進んでいるが、効果的に行えるようにしたい。家庭学校地域が連携をとる、情報交換会を団体の方と行っている。市立図書館と学校図書館のコンピュータシステムの連携、リーブルを使っての連携で調べ学習は5件申し込みがあった。学校は急ぎが多いので104件は電話かFAX。年3回学校の図書指導担当や司書教諭と市立図書館との連絡協議会を実施。学校との団体貸出の運搬の検討は2次で。社会科見学受け入れは定着している。ボランティアの高校生は年による。社会科見学は楽しい内容になるよう考えている。人材育成は市民の読み聞かせ関連の相談が多い。小学校の朝読書の相談。読み聞かせに向くリストの作成をしているがボランティアの方の活動に役立っている。今日中というぎりぎりの相談が多いのでよりよいものを紹介できない。地域家庭文庫おはなしグループの支援。グループのPR、図書館としては市民団体が充実した活動ができるように、団体貸出やお話の道具の貸出。啓発活動としてもとまち・並木図書館主催の講座講演会。フロアワークは本との出会いに必要なのでたくさんの時間を使ってフロアワークをしたいがゆったりとフロアに出ていけないのが課題。乳幼児健診でのパンフレット配布実施、子ども家庭支援センターに出向きおはなし会を光図書館で行っている、いずみプラザ1歳半検診は場所時間が難しい。3、4か月児健診時の絵本は棚が震災対策で撤去された。

館長：講演会は昨年度からアンケートを取っている。数字で示しているが回収率が少ない。アンケートはたいへん満足と満足を足して講演会出席人数で割っているので回収率が悪いとパーセントが低くなる。工夫が必要。

会長：何か質問があるか。

委員：計画は達成するためにどうするかと取り組んでいると思うがたくさんの項目がある。△が8で×4、○は今年できそうではないか。具体的に計画を達成するためには、△と×を達成するにはどうすればいいのか考えるのが早いと思うがどうか。

事務局：一次の反省をもとに○か△になるように変えていきたい。

委員：事例として並木図書館の講演会で「妖怪との付き合いかた」というのがあり、とてもよかった。子どもの目が輝いていた。会場の後ろに本を並べていた。サイン会もあった。本もいっぱいある。サイン会もする。仕掛けがある。どこもお金がないの

は当たり前。人をどうキャッチするかという視点でいけば予算は後で付いてくる。これだけやったのだから予算をくれ。去年 100 人だったのだからこれだけくれ。成果のあったものを 5 か所に広げようということを視点にすればいいと思う。

館長：忙しい講師が来てくれるということで、講師を選んでいくところからどうやったら参加していただけるかそういう事例が少しでも多くなるような積極的なPRをしていきたい。予算は、国分寺市は全体的に予算が厳しい。毎年少しずつ減らしていかなければいけない状況。今ある予算の中で子ども読書の予算は維持していくように工夫したい。少ない予算でもいい事業ができるように考えていきたい

委員：自分は時間が合わなくていけなかった。素晴らしい講演会だったのならせつかくいらしていただいているのなら本多でもやるなどもう 1 館ぐらいでできなかったのか。

館長：希望としてはわかるが、市の講師料は世間相場からすれば安い金額で来ていただき交通費も出ない。今回大阪から来るにあたっては、別の仕事で出てくる前日から来ていたので来ていただけた。1ヶ月くらい前に決まったので、PR期間がなかった。公民館にも協力してもらい大きい部屋を開けてもらった。何とか設定し、いい講演会をしていただけた。また機会があったら是非と働きかけたいが、綱渡りので実施していることはご理解いただきたい。

委員：であれば、講師料を払っているなら国分寺市に著作権があるということにしたビデオで撮って配信するとかできないか。

館長：講演をしている方は 1 回の講演が生のもので参加される方を見て合わせてお話しただいている。1 回の講師料は 26,000 円。著作権の問題もある。講師料はとても安い。記録を起こすために録音していた時期もあるが、今はテープ録音も許されることが多い。録音すればテープの確認もしていただかなければならず手を煩わせなければいけない。記録としてのテープも遠慮してほしいと言われている。

委員：だめだというのはたやすいことなので、ダイジェスト版でもいいので。1 回の講演が何回も使える。リクエストがあるならそれに答えるのが市のミッションでは。

館長：講師の考え方とかもあるのでそこは難しいところである。

委員：最初からシャッターを下ろすのではなく。

会長：可能性をどこまでも追求していくのも市民サービスの一環としては必要。来られない人のために何ができるか考えるのも必要では。頭に入れていただけるといい。

委員：内容が素晴らしかった。そういう実際のところを講演の内容だけでなく、会場の様子だとかをビデオは撮っていないのか。

館長：カメラは許可されている。

委員：そういうのがあればこういう催しものがあったということに使えるのではないか。参加者の反応を見るだけでも伝わってくる。

委員：著作一覧表が配布されていた。図書館の蔵書が出ていた。結構貸し出されている。

館長：記録としての写真は講師の許可を取って撮影。どういう形で公にするか、肖像権の

問題もあるが、市のホームページで報告ができるよう映る人に許可をとらなければいけない。工夫して会場の様子などもPRしていければいいと思う。

委員：皆さんに写真を撮っていいか聞いたらいいのでは。

館長：事前にお伺いして撮らせていただくということはしている。講師の方は顔が、聴衆は後姿が映るように。広報できればしたい。

委員：テレビニュースでもこういう講演会があると宣伝している。PRに使ってほしい。

委員：もとまちの児童文学講座は事前に市民の声を聞く機会があった。いつの間にかなくなっていて、いい人を選んでいるが、また市民の声を聞く機会があってもいい。

委員：そういう場所があれば図書館の人ともつながりができるかなと。

会長：講演会開催時にアンケートを取り、次回呼んでほしい人を書くようになっている。

委員：利用者懇談会につながっていく。重要視されていくものだと思う。

会長：やらないというよりはやる為にはどうしたらいいか、考えないと前に進んでいかない。講師料も図書館単独だと2、3万で安いのが、例えば公民館とタイアップするとかして3万を5万にして、呼べないが呼びたい人を呼ぶ。大きな事業が展開できて関心が集まる。これからは単独では難しい。協働でできないか。横断で、図書館と公民館と民間とでやるのがいいのでは。住民からは喜ばれる。

館長：いろいろ考えてみる。

会長：進行管理はよろしいか。出来るだけ×は○にしてほしい。

委員：7ページの学校図書館間の団体貸出の運搬は学校指導課で検討となっている。図書館で検討するとパブコメに出ていた気がするが。

館長：パブコメ、連絡協議会で検討させていただくと書かせていただいた。交換便は学校間を回っているものがない。学校間と図書館の検討を始めている。学校間の課題、学校指導課で学校間も含め、考える。

委員：学校間にも交換便がある。

館長：書類用なので小さくて2、3冊しか入らない。ある程度まとまったものが入られるようなものを調整している。

委員：時間をかけてやってほしい。本が動くだけでなくコミュニケーション、情報が一緒に動くのではないかと思う。じっくり前向きに取り組んでいただければいいと思う。

会長：他はよろしいか。次は図書館評価について。

館長：次は図書館評価案。第2期の運営協議会の時に定例の一つの取り組みとして、あげられ、図書館評価表を作成した。左は第1期の時、教育委員会からの諮問を受けての答申を元に、国分寺市立図書館のサービスのあり方についての指針を作成し、その指針が国分寺市の図書館の一番の基になっているが、それをもとに事業名主要事業名目標を割り振った。次に年度に合わせた目標を入れた表を作った。平成22年に評価していただいてから、3年たったので取り組んでいただければいいと思う。図書館評価表そのものは、今回の委員の方には図っていないが、どのようにやって

いたか見ていただく意味で 22 年度の評価表をお渡しした。それを今年度に当てはめて作ってみた。1 年たち図書館が評価した後で運営協議会が評価をするという形になっている。左側に大きな 6 点の柱があり、それをもとに作られた表である。図書館で取り組んでいる事業業務は網羅されている。第 2 期で作り 3 期で評価をした。今期に評価をしていただくにあたりどう取り組むか協議いただければと思う。

会長：提案は 25 年度の目標を定め、実績評価を 26 年に入っていく。第 1 次評価を図書館が、図書館運営協議会で第 2 次評価を行う。項目は見ながら進めていければと思う。今期の委員に課せられているのが 25 年度の評価を進めていただきたい。

館長：評価表自体も手を入れていただいた方がよいので検討いただきたい。

会長：持ち帰って次回以降問題提起。

委員：図書館の 1 次評価があるが、これを最初にやり協議会で評価。実績はできるだけ数値を入れてほしい。具体的に数値化できるように工夫。

館長：なるべくやってきたことを数値化していくということはやってきたことなので言葉でしか表現の仕様のないこともある。なるべく数値で表現していきたい。

委員：数値はいつごろ出るのか

館長：今頃にならないと出ない。26 年度にならないと数値は出ない。すぐ出るものもあるが全体の統計に時間がかかる。今年度はシステム変更があるので、2 つ取ったものを合体しなければならなかったりするので時間がかかることをご了承ください。

会長：通常役所の決算の報告が 9 月に出来る。それまでに各課はいろいろな数値を出す。来年の今頃に出てくる。5、6 月ではないと数値はまとまってこない。今お話があったように数値化できるものはできるだけ数値化しておいてほしい。

委員：アンケートの満足度だが、出した人の何割ではなく、参加しても提出しない人のものは評価されない。提出者の枚数での満足度というわけにはいかないか。出した人だけだと低くなる。参加者が多いのに提出者が少ないと満足度が低いと出る。

館長：教育委員会全体で、市のアンケートの出し方が決まっている。今後なるべくアンケートにはお答えいただけるように工夫していきたい。

会長：誤解を受けるような数値が独り歩きしてしまうと心配だなと思うので慎重に。

委員：アンケートの集計をする時に参加人数が何人、アンケートの回収率、回答が何人、それに対して評価がいくつということにすれば。

館長：満足度の数字しか出ていない。参加人数と回収の人数が出た上でアンケート回答者がこれだという数字が出なければ。回収率が出た上でパーセントを出さないといけない。

会長：評価については来年の話になるがよろしく。次は新駅前分館について。

事務局：2 月 11 日から 3 月末まで意見募集。その時の意見が 3 - 8 - 1。図書館ではその他に 1 月末から 2 月にかけて 3 回の利用者懇談会を実施。再開発ビルの 5 階部分に市民サービスコーナーと L ホールと図書館、その他の 25 m²民間施設の活用エリア、

どんな施設が入ってほしいかとどんな図書館になってほしいかという希望が載っている。民間活用エリアについては図書館だけでは決められないので、これから関係各課が集まって届いている意見についてどうするか話し合う。話し合いは遅れていてまだ集まっていない。図書館は狭いという意見が結構ある。多少意見を受けて広げてもらえるかは図書館では決められない。図書館部分について、引き続き意見をいただきたい。前回の意見を受けてコンセプトは3-8-2。原案を6月中にまとめる予定であったが来週話し合いがある。決まり次第報告する。

館長：5階に入る。特定建築者が決まり、業者は住友不動産。提案を受けて5階全体を検討していく中で図書館をどうしていくか。いただいた検討内容を受け図書館なりにコンセプトを考えたのがお配りした資料。今後の流れとして5階部分についてLホール、市民課、ふるさと文化財課などと話し合っただけでどう配置するか、ご意見を伺いながら進めていく形になる。

委員：コンセプトは誰でもわかりやすく、なるほどというのが醸し出せるのがいい。コンシェルジュは普段聞かない。案内人ならご案内としての役割とか、カタカナを使うと抽象的になる。言葉へのこだわりという意味で表現したかと思うがわかりやすく。

事務局：今ホテルとかでコンシェルジュというのがあるので案内人だとちょっと違うかなと思うので、カタカナは注を入れるなど気をつけたい。

委員：3つのコンセプトから、新しい分館ができますということならいいが、キーワードにコンシェルジュを入れるなら2も3も入れたほうがいい。3つ一緒に成り立つ。違和感がある。大きなコンセプトで、上に書いて1, 2, 3があるとわかる

委員：武蔵野のように絵があるとわかりやすい。

館長：コンセプトは誰が見ても一目でわかること。160㎡の中で何をつくるかを端的に表さなければいけない。いいアドバイスをいただいた。

会長：面積の確保はもう決定か。

館長：市の床と言っても民間活用施設もあるので、今のところは160㎡。

会長：重要なのは1番で地域行政情報の収集。これは図書館だけでは賅いきれないので、行政資料を担当する部署との連携を緊密にやらなければ。行政で印刷するものはすべて収めてもらうという約束でやらないと集まらない。縦系列で、隣の出しているものがわからないことがある。横断的に見るのが図書館なので目を光らせてすべての刊行物を入れてもらう約束を全庁的に共通認識として持ってもらおう。

館長：国分寺市の場合総合情報課、その中に広報広聴課が入っていて、オープナーとどう連携していくかが行政情報を収集していくのに大事だと思っている。入口は㎡数も限られているので図書館全体のバックヤード機能を補完、どうしていくのか考えていかなければいけない。場所的などころで。

会長：図書館が役に立つところ、図書館の力を見せるにはいいチャンスだ。いい例は日野市の市政図書室。参考にしながらやっていただければ。この完成はいつか。

館長：平成 29 年の 12 月オープン予定。若干遅れ気味であるので遅れる可能性があるが、これから関係各課が集まっていたいただいた意見、コンセプトをまとめ、パブコメをすることになると思う。手続きを取った上で実施設計に反映しながら、そのあと今からのスケジュールでは平成 27 年から工事が始まるのではないかと思う。施設面の制約がある。ある程度まとめておかなければいけないが、中身をどう組み立てるか、これから先どういう図書館を目指すのか検討してほしい。

会長：25 年度中にコンセプトをまとめ、図書館が何をしたいのか。どのような目的をもってこの施設に入るかどこかで意思表示をしていかないといけない。住友不動産のプレゼンも見ておかなければいけない。総合的に固めていく。今年が一番大事。

委員：160 m²というのはどのくらいなのか。

館長：今まであった駅前分館を見たことがあるか。本多図書館の開架が 600 m²。

会長：学校の教室が 80 m²なので 2 つ分

館長：そこに本棚も事務スペースもバックヤードも、インターネットパソコンを置くのもその中に入れる。

委員：武蔵野プレイスは夢のようだった。

館長：9,000 m²なので。

委員：自由に使える部分というのは部屋一つ分くらい。

会長：そういうことでよろしくお願ひしたい

館長：アウトソーシングの経過報告。平成 23 年に図書館の運営について、教育委員会の方針として示しているが、図書館は民間より直営で運営していく方がコスト面でも安いし継続していけるという考えを出した。行政改革推進本部からは、アウトソーシングできない合理的理由がないと判断しており、委託だけでなくいろいろなケースについて考え判断してほしい、職員が担わなければいけない業務は何か示してほしいと言われた。昨年度 8 月に実施方針を出した。こちらでは市立図書館の運営について基幹業務を財務、運営協議会、子ども読書、地域行政資料、障害者サービスの取り組みについてとし、正規職員あるいは図書館直営で行わなければいけない図書館の業務としている。市立図書館の現状。人口が同じくらい他市の例を聞きながら、合計 3,487 m²の 5 館で他自治体の中心館規模なのだという状況ということも含め、コスト計算し提案した結果、直営でやるのが望ましいという考え方を示した。それに対し、再度検討依頼がされ先進市で行っているアウトソーシングの手法を選ばない理由が合理的ではないと言われ、アウトソーシングに基づいた計画を出せ、アウトソーシングの手法をとらない場合はその理由を出せと言われている。国分寺市は市の職員と非常勤職員と臨時職員で運営しているが、この間かなり減らしてきている。職員 19 名、嘱託 19 名の一番多かった頃から比べると職員は多い時から 12 名減。コスト削減には努力してきたが、アウトソーシングすべきという考え方が示された中でどういう形でやったらいいか検討している。図書館内部で検討している

のでそれ以上のことはまだ示せない。

会長：また具体的に図書館から出していくものがあれば示してほしい，皆さんから提案いただければそれも参考にしながら。締め切りは。

館長：少しでも早くと言われている。夏ぐらいまで。次回に間に合うように会議をする。

会長：そういうことを認識いただいて。そのほかに何かあるか。

館長：第2回の要点記録をお渡ししている。何かあれば6月中ぐらいまでに連絡を。

次回子ども読書の進行管理表の見直しがある。光図書館を見学したが次は別な館で。

会長：以上で終わる。